

塑性加工の総合専門誌

# プレス技術

1

2016  
Vol.54  
No.1

PRESS WORKING

## 特集 塑性加工メーカーのグローバル戦略

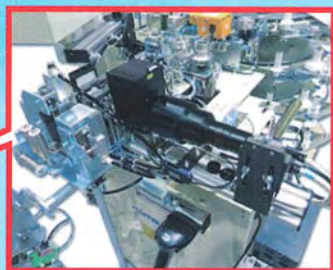
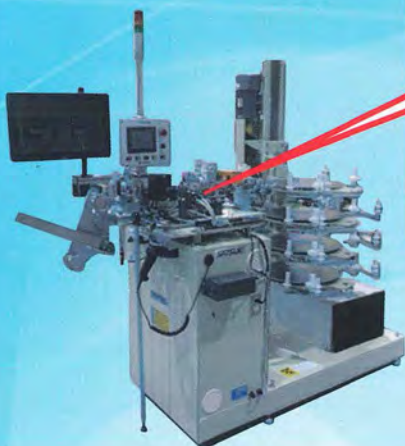
巻頭インタビュー (株)伊藤製作所 代表取締役社長 伊藤澄夫氏 「日本的経営を貫き、社員の能力を引き出すモノづくりで社会に貢献する」

主要記事 コネクター端子の自動多面測定器の開発 好評連載 プレス自動化のための電気制御入門

### トラバース式巻取機

# MYTEL

次代を見ずえる業界のパイオニア



SSS **SATSUKI**

プレス関連自動化・省力化装置

**サツキ機材株式会社**

**Futaba** Group

## 第27回竹内記念・ニュー型研サロン 塑性加工メーカーの海外展開や金型材料について講演

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市:内山真司社長:0463-93-7771)は、「第27回竹内記念・ニュー型研サロン」を11月21日に東京都港区の日立金属・高輪和彊館で開催した。竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会で、今回は(株)伊藤製作所の伊藤澄夫社長、(株)竹内型材研究所の中西弘執行役員甲信越出張所所長が講演した。

伊藤社長は「中小企業の体験的アジア戦略」と題した発表を行った。フィリピン子会社やインドネシア企業との合併設立の経緯を交えて、中小塑性加工メーカーが利益をつかむための仕組みづくりや海外進出の必要性、進出に向けた社内体制の構築、進出国選定のポイントなどを講演した。

仕組みづくりでは「社員を大事にする」「新技術の開発」「継続した設備投資」「海外事業」をポイントに挙げた。また、海外進出を検討する際、「利益を出すのは7年後、その利益を再投資に活用する」「日本の平均的な技術を保有する中小塑性加工メーカーであれば海外進出で商機がある」など具体的なノウハウや現地の動向を説明。一方で、課題を「海外駐在できる人材の育成」とし、「語学力に加え、日本と進出先の文化や近代史を

学び、理解しておくことが現地社員との円滑なコミュニケーションや技術・技能移転の早期達成に不可欠」と指摘した。

また、同社は2016年12月にフィリピンで金型製作専用の工場を稼働する。伊藤社長によると、自動車産業の一次サプライヤーは高精度順送金型のASEAN地域での調達を進めており、旺盛な需要を取り込むことを見込む。現地社員の技術や技能は日本人社員と同等レベルに育っており、人材育成の成果を中進工業地域での新たな市場獲得に向けて活かす。「『金型専門は儲からない』と言われているが、しっかりと利益が出せることを証明する」と抱負を述べた。

中西氏は「営業マンから見た金型材料」と題し講演。金属材料の基礎を踏まえ、鉄鋼材料と金型材料の主な特徴や熱処理、表面処理法の選定方法などを解説した。

「鍛造加工における厚板の抜き型材料の選定のポイント」といった現場が抱える課題について、加工油の付き方がポイントになることを指摘したうえで、「HRC 50くらいが最適硬度」「面粗度をあえて粗くすること」など具体的なノウハウを提示し、講演を締めくくった。



独自の経営哲学やフィリピン進出の経緯、今後の海外拠点の役割を講演した伊藤社長



金型材料の組織について説明する中西氏